

327

732

産牛業の發展に就て



始



327-732



緒言

本年四月十六日縣下畜產業者の會合を機とし元農商務省畜産課長たりし日本獸醫學校長獸醫學士西川勝藏氏を招聘して畜産講話會を開催せり本書は即ち此會の講話筆記なり氏は本邦畜産界の泰斗にして夙畜牛改良に腐心せらるゝを以て特に産牛上の講話を乞ひたる所以なり今爰に之を上梓して汎く當業者に頒つ

大正四年七月

岡山縣内務部

大正
4. 8. 10
内交

五六
0184
文内

産牛業の發展に就て

西川勝藏

今回當地に於て畜産會の總會を開催せらるゝにつき不肖の私に出席して何か講話するやうにこのこと出岡したる次第でありまして多數斯界の諸君に面會することを得たるは誠に此の上なき私の名譽でありまして大に喜悅する所であります

近時新進の學識ある多くの人士が輩出して有益なる斬新の説や西洋の土産話などのある時に當り此の古き頭を以て講演を試みるが如きは甚だ嗚呼がまじきことでもあります故きを温ね新しきを知ると言ふこともある次第で古き頭の語る所も亦幾分參考となることを得れば寔に光榮の至りであります暫時清聽を煩はします

借我邦に於て畜産即ち牛馬の改良を企圖して以來約五十年に達するのであります

て決して短き年月ではありませぬ其の長き年月にも拘はらず諸他の事業に比較すれば此の畜産業は満足すべき進歩を見ることが出来ないので私は常に焦躁しよくしく思ひ恰も痒かゆひ所に手が届き兼ねるの感がありまして今一息で稍々満足すべき境遇に達するではないかと思ふのであります勿論五十年間の長き年月でありますから



一般の上から観れば改良状態は進んで居るのであります近頃陸軍當局者の言明せる調査に依れば明治二十五年以來二十一年間に平時に於ける軍馬の体尺が三寸体量が三十貫増加して居ることであります之れを以て推すときは一般に於ける馬匹が幾分上進して居るは疑ひのないことであります又明治三十三年中國諸縣初期の畜産共進會が島根縣三瓶山に開かれたる當時の實況と近く兵庫縣姫路に於て開かれたる第六回の共進會に於ける實況とを比較すれば實に霄壤の差があります即ち曩には殆んど黒色の和牛の出陳のみでありましたが姫路に於ては殆んど外國種系のもので仮令ひ黒牛の出陳があまりましても其の体型は曩の日のものとは大に其の趣を異にして居りました此の席には定めて三瓶山當時の實況を目撃されたる諸君も多くあることと思ひます尙ほ明治二十八年の京都に於ける第四回の内國勸業博覽會と同三十六年大坂に於ける第五回の博覽會とに於ける實況を比較すれば是れ亦大なる變化が現はれて居ります即ち二十八年に於ける出陳牛總數は僅に七八頭でありまして其の中關西地方殊に兵庫、岡山、鳥取、島根の諸縣より出陳せる多數の牛は悉皆和牛でありまして受賞牛四十頭中和牛の賞を受けたるものが十七頭でありました而して當時「ホルスタイン」種系の牛七頭の出陳がありましたのは頗る

人の奇異に感じた所でありました三十六年の博覽會に於ける出陳牛總數は百十三頭でありまして和牛大に減じて僅に十八頭でありました而して前述せる如く二十八年には兵庫外三縣より出陳せるものは悉く和牛でありましたが今回右四縣より出陳せる三十四頭中和牛は僅に十三頭でありまして就中岡山、島根の兩縣よりは和牛の出陳は一頭もなかつたのでありましたが外國種牛にては出陳總數の中「ホルスタイン」種牛が純粹と雜種とを合して殆んど其の五分を占めて居つた有様でありました

又最近の統計に依れば改良の基礎とも言ふべき種畜の外國種が漸次に増殖して居ります即ち馬に就て述べれば明治四十四年より三年間に毎年外國種の種牡馬が凡そ三百頭或は四百頭の割合を以て増加して居ります之に反し雜種は毎年約百頭乃至二百頭の割合を以て減少し内國種の如きは其の減少著しく明治四十二年には尙ほ二百頭の數を維持せしも大正二年には僅に四十六頭となりて居ります之れは其の跡を絶つに至るは遠からざることと思はれます種牡牛に於ても其の外國種は右三年間に毎年約百頭乃至二百頭の割合を以て増加し雜種が漸次減少して居ります然るに統計上に依れば雜種と反對に内國種々牡牛の數が大に殖へて居りますが

之れは近年雜種の名を避けて改良和種或は改良内國種と稱しまして之れを内國種中に編入したるもので一種の雜種であります決して純粹の和牛ではありませぬ故に結局雜種たるべきものが漸次殖へて純粹の和牛は漸次減少して居る次第であります

四

叙上の状況に依りて觀察いたせば我邦の畜産業は實力に於ては兎に角其の形に於ては確かに進歩して居ることは一般の認むる所でありませぬは從來官民共に大に盡力したるの結果でありませぬ併しながら之れを以て決して満足すべきではありませぬ今後益々進んで益々改善の方法を講せねばなりませぬ而して吾人が理想とする所を以て考ふるときは其の進歩が如何にも焦躁しく感せられるのであります之れを要するに斯る状態は畢竟畜産上の智識が未だ充分に普及して居らぬが爲め畜産經營上の諸般の方法が全く有利的に行はれて居らぬに似ることを信するのであります又一方畜産改良に着手したる明治の初年に溯つて考ふるに其の當時官民の間に於て改良の方針が確實に定つて居らなかつたことに基因するものと察するのであります然れども諸君が知らるゝ如く我邦と歐米諸國とは農業の本位に於て大に其の事情を異にせるが故に往時方針が確定し居らなかつたことは止を得ざる

次第であります

方針。凡そ何事に拘はらず其の改良を遂行せんとするには先以て方針の確立を必要とするは今更喋々するを俟たずして明かなることでありませぬ故に今日講演の一要旨として畜産改良上方針の確立てふ問題に就て少しく陳述したいと思ふのであります抑も我邦維新前後の畜産状態を察しますれば維新前に於ては牛馬共に其の用途が極めて單純でありまして先づ畜牛に就て言へば畜牛は専ら農耕運搬の使役に供せられ需乳需肉の如きは維新後歐米文明の輸入に由て誘はれたるものでありまして之れは全く維新の賜物であります蓋し維新前には白牛酪と唱へて僅に白牛の乳汁を重病患者に與へ其の貴重なる滋養薬とし又牛肉は穢多即ち今の新平民が時寄り密殺して薄暮低聲人の擔下を竊に賣つて居た有様でありました馬匹の如きも今日にては乗用輓用駄用等の區別があるけれども維新前にありては普通農間にあるものゝ外乗馬と稱して各藩主を初め上級の侍即ち武士が乗用として飼養して居つたに過ぎないのであります

然るに歐米諸國に於ては如何であるかと云ふに畜牛には乳用肉用役用畜牛にては役用に重きを置かず随つて役用専門の畜牛は少なき方なりの區別があり馬匹には乗用輓用農用獵用等の區別がありまして其の乗

五

用輓用中にも自から輕重の別がありまして夫々用途が異つて居ります例令ば畜牛にては乳用として「ホルスタイン種」「エシャー種」「ジャージー種」等があり肉用として短角種「ヘレフォード種」がありまして其の他役肉兼用の「デヴォン種」「乳肉兼用の「ブラウン・スイツス種」又乳肉役の三用途を兼ねたる「シンメンタール種」があります馬匹に於ては乗用として是有名なる英國純血種を初め佛國の「アングロアラブ種」「獨國の「トラケーネン種」「米國の「トロッター種」「露國の「オルローフ、ロストブチン種」「獨國の「ギドラン」「フニユース」種等があり輓用としては大に輕重の區別があります但し佛國の「アングロノルマン種」其の輕きものは乗用に供せらる「ベルシユロン種」「獨國の「オルデンブルヒ種」「白國の「ブラバンソン種」「蘇國「クライデスデル種」等は人の普く知る所のものであります」

斯の如く歐米諸國に於ては各々目的に向つて何れも特殊の種類がありますけれども前に述べたるが如く我邦の畜牛は單に使役一方のものでありましたから之れを改良するには如何なる目的を以て如何なる種類が必要であるかの研究もなく其の改良に着手したる當時に於ては恐らく確乎たる一定の方針が有つたではなからうと思ひます又我邦の固有牛は我國狀に適應して決して輕視すべからざる長所があるなれども其の長所を維持して短所を補ふなどの念慮もなく唯々漫然洋牛を輸入

して我邦の畜牛を洋牛化して了ふと言ふ考へであつたかと思はれます尤も乳汁を産出する畜牛を蕃殖するの目的は無論有つたに相違なきことと信じます其の方針が當時不確定であつた証據には私が奉職して其の局に方り明治二十年前後に畜産の狀況調査の爲め地方に出張するときには必らず種々の苦情を訴へられました即ち「デヴォン種」を飼養すれども乳量が甚だ鮮少であるとか或は短角種の雜種は和牛にも劣りて更に勞役の用をなさぬなど唱へて頻りに洋牛非難の聲を聞きました併し此苦情の起るのは當然のことであると思ひました何となれば元來役肉兼用の「デヴォン種」に向つて、泌乳の多量を望むが如き又肉用の短角種此種には泌乳系のものありて此の如きは乳肉兼用の能力がありますに向つて勞役を求むるが如きは全く見當違ひのことでありまして斯る見當違ひのことは畢竟畜牛改良の方針が確立して居らぬ所より招來したのであります斯く一般に洋牛に對して嫌や氣を萌して居る所へ確か明治十八九年の交かと思ひますが獨乙修業の故長井新吉氏が農商務省より命を受け中國各縣を巡回して大に和牛を賞賛して洋牛を排斥し殊に乳牛には和牛を馴化せしめて充分得る所あるなど唱へたるが爲めに一時洋牛及雜種牛の蕃殖は一大頓挫を來たして不振の狀態に陥り純粹の短角種又は「デヴォン種」の如きも種付に用ひずして徒に牛舎に繋養し居るの愚を演

したることがありました是亦方針の不確實であつた一の証例であります
 右の如き事實は産馬業に於ても亦見る所でありまして初め馬匹の改良を企圖した
 るとき如何なる種類が騎兵用の乗馬に適するか又は如何なるものが砲兵用輓馬に
 適するかに就ては深き考慮を費すことなく單に乗用型の馬匹を輸入して雜種を生
 産せし所が普通の乗馬としては兎に角大に速力持久力輓曳力を要する軍馬として
 は甚だ不適當なりとの非難が起り次で彼の「アルゼリー」馬が輸入されて以來一層非
 難の聲が高くなつたことがありましたが是全く最初に於ける馬匹改良の方針が確
 立して居なかつた結果であらうと思ひます

其の後牛乳の需要が日に増し進むに従ひ自然に洋種牛の血液の交りたる畜牛の増
 殖を必要とすると同時に純粹なる乳用牛も世に知られて「エヤシア」種「ホルスタ
 ン」種の如き種類の畜牛が續續輸入されるやうになりました洋種牛雜種牛が漸次増
 加するやうになりましたのであります即ち「エヤシア」種は明治十九年の頃初めて米國
 より北海道に輸入されたのが嚆矢でありまして爾來若干の年月を経て漸次一般
 に知られたのでありますとして政府が原産地の蘇格蘭より輸入されたのは明治三十
 三年であります「ホルスタイン」種は明治十七八年の交に横濱在留の某外國の乳業者が

初めて米國より數頭を輸入し次で二十一年に原産地の和蘭より下總御料牧場に十
 頭を輸入し二十三年に米國より北海道に三十四年に和蘭より小岩井農場に輸入さ
 れたのであります其の後官民ともに或は米國より或は和蘭より續々輸入して今日
 の狀況になりて居るのであります「ブラウンスキツ」種牛は三十四年に初めて下總
 御料牧場と小岩井農場に瑞西國より輸入され「シンメンター」種牛は三十三年に故
 獨乙獸醫學教師ヤンソン氏の意見に由り初めて京都の小牧農場に輸入され翌三十
 四年に政府の牧場に輸入されたのであります

叙上の如く種々の洋種牛が輸入されて其の純粹種なり或は雜種なりが多く蕃殖さ
 れて居るのであります然れども各種類が其の固有の能力を充分に發揮して居らぬ
 は甚だ遺憾とする所でありまして即ち今日尚ほ各地の共進會又は品評會に於て其の
 用途や種類にして判然せざるものが多々あるは畢竟各固有の能力が充分に發揮し
 て居らぬ証據でありまして其の原因する所は私が前に述べました方針即ち目的の
 基礎が不確實なるにあることと信じます馬匹に於ても亦同様の事情があります例
 之ば牛に就て見るも短角系に「デヴォン」系を配して乳用とし「デヴォン」系と「ブラッ
 スキツ」系とを配し短角系に「ホルスタイン」系を配し或は「シンメンター」種を作

りて乳の不足を訴へ或は「エヤシア」種の雜種を作りて体量の不足を彼是と言ふが如き有様でありまして結局如何なる目的を以て生産を計るのであるか更に其の要領が分りませぬ一定の方針もなくして唯々漫りに洋々雜種や和洋雜種を作りて或は乳量を要求し或は乳量を要求することを實に不合理の次第であります蓋し方針が定つて居らぬときは乳牛に適せないものに向つて乳牛の取扱を爲し又は乳牛たるべきものに普通の飼養法を施す等自づから不經濟の道を踏んで居るので換言すれば之れ全く努力と時日を徒費して居るのであります其の改良の効果が比較的顯はれて居らざるは無論當然のことであり、又元來我邦では中國地方は別として一般に國家の成立上餘り牛馬を重要視して居らぬ亦愛護の念も薄く随つて改良に興味を以て種々工夫を凝らすなどの考へなきことも改良發達の思はじからざる一の原因であると思はれます之れに反し若し初めに於て改良の目的が確立して興味を持つて居たなれば其の興味と熱心に由り目的の遂行に向つて邁進するが故に之れが効果を得ること早くして而かも佳良なる成績が擧がるのであります畜牛の改良上方針の確立が如何に必要であるかは斯の如くに明かなることであり、ます故に若し畜牛を飼養せんとすれば先づ以て地方の狀況、四圍の事情等を能く觀

察し肉役用乳用何れを飼育するが得策であるかを研究して一定の方針を立てねばなりません、而して其の方針が確定したる上は之れを變更せぬやうにして假りに優良の乳用牛を生産せんと欲せば一意専心選擇の上にも選擇を加へて人為的陶汰を行ひ充分に固有の能力を發展せしむるやうに努むることが極めて肝要であります、彼の一旦肉役用の目的にて改良せるものに更に乳用系のものを配し又は乳用系の改良種に肉用系のものを交ゆるが如き雜駁の種類を産出することは嚴禁せねばなりません、

岡山縣の如きは地勢上大体に於て自然に役肉種地方と乳用種地方とに兩分せらるゝことと考へられます、就ては役肉種のごとは姑く措き今乳用種のごとに付て少しく述べたいと思ひます、本縣に於ては夙に多くのホルスタイン種牛及「エヤシア」種牛を蕃殖し其の數甚た豊富でありまして重なる乳用牛産地として其の名聲を博し他縣に多く賣り出して居ることは人の周知する所であり、然れども其の數も亦、年々も経て居る割合に能力優良なるものが乏しきやうであります、之れは無論其の方針は乳用種牛の生産にあるなれども之れを終始一貫して陶汰法を實行するの力が足らざるに基因するのであります、即ち偶々或る程度まで上進したるもの

十二
に對し、次に選ぶべき種畜を等閑にし、て前者にも劣るべき種畜を用ひ、全く姑息の蕃殖を爲す等、恰も寸進尺退の有様であると思はれます。

斯くして今や本縣に於ける乳牛の如きは其の体形のみを以て見るときは優良のものなきにあらざるも其の能力如何に至りては甚だ疑ひの存する所でありまして之れが改良に向つては大に突進するの必要があるのであります而して其の能力をして上進せしむるの方策たるや全く人爲的陶法を勵行するにあるのであります今日「ホルスタイン」種牛、「アヤシャ」種牛、「ジャージー」種牛の如き乳用牛は何れも皆な陶法に由て斯くまでに改良されて居るのであります彼等の短角種牛の如き肉型を構成し早熟性を備へて居るのも亦陶法に由つたのであります。諸陶法を行ふには先づ以て各種類と目的とに従ふて体型及能力に一定の標準を立て漸次其の標準に接近せしむることに努めて所期の目的を達するまでに進み終に其の体型及能力を固定せしむるに至るのであります米國に於ては彼の「ウイスクンシン」大學の「バツ」プロック氏が二十餘年前に一種の脂肪分離器を以て能力の檢定を開始し乳量一ケ年十五石乳油三百斤以上の標準を立て其の標準以上にあらざれば登録せざることを爲し之れを勵行して以來大に乳牛の能力を増進し今日の隆盛を來たして居るの

であります斯る陶法に由て得たる良好なる特長は確實に固定して永く保存し之れを遺傳せしむるやうに努めねばなりませぬ即ち妄りに系統不明なる畜牛を入れて蕃殖を計るが如きは折角固定したる特長を崩し遺傳力を失はしむるに至るが故に此の遺傳力を維持せんとするには決して系統の不明なる畜牛をして配合せしむるを許さぬのであります茲に至りて彼の血統登録なる事業が極めて重要なことになつてあります。

歐米諸國に於ては各種の畜牛に對し多くは夫々の協會がありて血統の登録を勵行して居るのであります。我邦にても從來中國地方に養牛と唱へて居りますが之れは或る種の血統の正しき畜牛を意味し血統を尊重するの證據であります。二三年前私共同志が蘭牛協會なるものを設立して「ホルスタイン」種牛の血統登録を企圖したるも全く前述の趣旨に基きたるものであります其の登録の方法即ち定款登録規定審査標準等別に小冊子になつてありますから茲には略しますが而かも世人殊に牧牛家たるものが之れを認ること極めて冷淡でありまして大に輕視されて居るは甚だ意外とする所であります蓋し血統の登録は各畜牛の特長を遺傳せしむるに必要なのみならず今日種畜を選択する上に於ける唯一の好手段であります即ち何人たりとも種畜を所望する者は其の善良なるものを選ぶは無論のことでありまして如何に由

つて其の善色たることを証明するでありまじやうか体格に依らんか時に判定を誤ることあり性能等賣者の言に依らんか動もすれば信を措き難きことあります此に至れば畜牛の眞價を証明するものは登録血統に若くものはなからうと思ひます之れに由つて充分選良の目的が達せられまして結局賣買両者ともに大なる便益を享くることになるのであります但し血統登録は其の証明を偽造し得らるゝを非難するものがありますけれども徳義を外れたるの行爲は別問題であります

我邦乳牛の搾乳力即ち能力は勿論年々増加して居ります即ち乳牛頭数の割合に搾乳高が殖へて居りますが之れは能力の増した証據と思はれます例之ば明治四十三年には五万二千三百頭餘の乳牛で搾乳高が二十五万五千五百石餘でありますが大正二年には五万二千四百頭餘の乳牛で二十七万三千九百石餘の搾乳高であります又明治四十四年には五万五千四百頭餘の乳牛で二十六万七千八百石餘の搾乳高で大正元年には五万三千三百頭餘に對し二十七万四千四百石餘の搾乳高であります然れども乳牛一頭に對する搾乳高を府縣別とすれば或は七石以上のものなきにあらざるも大部分は其の以下でありまして全國の平均は五石内外であります九芴全体の平均は三石二三斗にして他に比すれば大に劣る方であります本縣の如きは四

石乃至五石の間にあるのであります加奈陀の如きに於て普通農家の畜牛で其の最少限が七石五斗以上でありまして我邦搾乳專業者の乳牛に比し尙ほ勝れること斯の如くであるにも拘はらず加奈陀當局者に於ては頭数の増加を奨励するよりは寧ろ能力増進の目的にて淘汰の急務なるを説諭し居ることでありまして右の産乳狀況に依て見れば我邦乳牛の能力は大に上進せしむるの餘地があるのであります我邦に於ても其頭数の増殖よりも寧ろ能力の増進を必要とするは私の主唱する所でありまして常に搾乳業者に説く所であります例之ば三石の牛乳を得るに三升能力の乳牛十頭と五升能力のもの六頭を飼養するに其の孰れか利益なるや敢て私の喋々するを要しませぬ殊に昨今の如く飼料が漸次騰貴するに連れても能力の多きものを少數に飼養することが利益であります勿論斯の如き事理の明瞭なるは何人と雖も知る所でありますけれども知つて之れを行はざるは恐らくは資金の關係に因るものならんと思はれますなれども若し實行し能はずとて平素常に此の點に留意して居たなれば何れの時か其の實行を見るに至るでありまじやうと思ひます必竟劣等のものを多く飼養するに至るは元と姑息的に漸次低價の畜牛を購求して飼育し後ち終に情に於て淘汰する勇氣が失せ自然不經濟とは知りつ

とも劣等種を多く蕃殖して居るやうになるのであると思ひますが之れは極めて善くないことであります或る搾乳業者中には搾乳家たる者は畜牛改良などのことは眼中に措かず一意乳を賣つて居る方が伶俐である愁ひ改良などに手を出せば損耗を招くなど唱ふる者がまゝりますけれども之れは大なる誤りであります即ち同じく畜牛を購入するなれば少く高價にても能力の善良なるものを飼育すれば其れ相應に乳量も多く且つ高價の産犢が殖へて自然に淘汰を行ふやうになりまして最後の採算上に於ては利益する所がありて決して損失を招くが如きことはなからうと思ひます

要するに畜牛を飼育せんとするに於ては先づ以て方針を確立するの緊要なることは前説に由て充分盡して居ることと思ひますが一旦方針が定つた上は其の方針を變せぬやう飽まで貫徹せねばなりません其れに就ては種々必要なる經營上の方法があり、ますから之れを充分に研究し且つ實行して、仮令ひ肉役用牛にせよ乳用牛にせよ極力其の能力の上進に向つて努めねばなりません故に今日以後の畜牛改良は専ら其の意義を能力の改良に取りて進みたいのであります而して前に述べました彼の徒費徒勞を敢てせざるやう大に注意せねばなりません私が方針てふ問題の下

に諄々しく陳述いたしました要点は叙上の次第であります

飼草。家畜の飼育に藪草の必要なることは今更私が喋々するを要しませぬが我邦人口の増殖に伴ひ開墾地の増加、殖林の獎勵、緑肥農業、習慣等其の他地方の衰退に依り草生の地域及其の分量が漸次減少しつつあるに由つて常に大に警告して居る次第であります抑も藪草が豊富であれば畜産業の發展は極めて易々たるものであるけれども之れに反し藪草が欠乏しては蕃殖改良などに力を入れる餘裕がありません畢竟藪草は家畜の主食料でありまして藪草さへ潤澤なれば周年穀類を給與せざるも善く生育するものであります古來有名なる畜産地に於ては何れも相當の草生地が存して居るのであります例之ば神戸牛の仙養山千屋牛の雄山雌山小白牛の七美山岳房州牛の嶺岡に於けるが如くであります勿論歐米の牧草状態は我邦に比べやうがありませんけれども私も一度歐米に参りまして一層藪草の必要なることを感じたのであります其の藪草は多くは人工的の牧草でありて何れも營養質に富むで居るゆゑに未だ用を爲さざる不生産時代の牛馬は全く草野に放牧されて更に穀類が與へてありませぬ假令ひ泌乳期にある乳牛でも時に穀類の濃厚飼料を給せらるゝことがあるなれども其の主食料は殆んど牧草のみであります斯の如く藪草

が家畜に必要であるにも拘はらず多くの人が之れを重要視せぬのは實に不思議で
なりませぬ畢竟我邦では米藁が豊富でありますから藪草に對しては心を弛めて居
るのであらうと思ひますけれども米藁は工業が進むに従ひまして他の有利なる事
業に奪はれますから常に豊富であるものと安心はなりません或は場所によつては
尙ほ良き野草が多く生産しますけれども漸次人里を離れて遠方に足を運ばざれば
獲ることが難くなるのであります

草野の荒敗と其の減少とに對しては、今にして之れが相當の救濟法を講せざれば遠
き將來に於て家畜の飼育上容易ならぬ問題が湧出するであらうと思はれます其れ
故に私は先年農商務省で産牛調査會が開かれまして當時牧野維持法發布に關する
意見を出して要領を得ずして了りましたが私は甚だ遺憾に思ふのであります元來
當局に於ては餘程山林に重きを置き盛に殖林を奨励されて藪草地の維持に對して
は左程顧慮するの誠意がないやうに思はれます勿論山林が國家の經營上必要なる
ことは何人も知悉する所でありまして同時に牛馬も亦國家の現存上必要缺ぐべか
らざるものであります即ち馬匹なければ一朝有事の日忽ちに事を缺ぐでありまし
やう畜牛なければ糧食に差支を起すのであります斯の如く牛馬が國家の上より必

要なるものとするれば其の所要の草生地を供給して之れに相當の保護を與ふるは
當然のことでありて而かも最も緊急なることであると信するのであります然るに
事實は之れに反し某々地方の如きに於ては山林増殖の爲め原野の草生地を減少し
たるに依り大に牛馬が減じたることを聞きましたが斯く草生地が減つて家畜が減
するなどは國家の現象上決して看過すべきことではなからうかと思ひます故に家畜
の蕃殖に改良に其の方法に付ては官民ともに種々研究して居る所でありまして農
業者として農耕上必要なる家畜は一人たりとも飼育者の増加するを希望するので
あります併し此の増殖のことたる言ふは易けれども仮令ひと頭にても容易であり
ませぬ即ち資金の調達畜舎の設備糧草の準備等に付き夫々豫算を要する次第であ
ります然らば如何にせば蕃殖が充分に行はるかと言へば之れは畢竟需要供給の
關係に依るものでありまして需要さへ盛になれば供給は自然に起るものでありま
して決して人爲的に強ひられるものではありません其の需要は必竟家畜の價格が
低廉なれば隨時盛んになるものであります左すれば強ち奨励を待たずとも自然に増殖
を見るに至るのであります又一方需要者が富裕なるに至らば高價の家畜を購ひ得

るがゆゑに生産者も従つて増殖を計るに至る理なれども之れは甚だ望の遠きこと
 と思はれます而して家畜の價格を低廉ならしむるには、可及的生產費を省き其の育
 成中に要する費用を節することを努めねばなりません。前に述べたるが如く
 芻草が極めて必要になるのであります。芻草にして豊富なるが上にも豊富であるな
 れば家畜は完全に最も經濟的に其の發育を遂げ得らるるのであらう。従つて自然生
 産費を節するを得價格に甚しき影響を來たさずして相當の収益が得らるること
 思ひます。

斯く説き來たれば家畜の増殖を奨励する唯一の手段たるや可成草生地域を多から
 しむるに、あることは明らかでありまして決して等閑に付すべきことでありませぬ
 然らば畜産に従事する者は可及的草生地を多く所有するやうにして之を愛護し草
 生をして益々善良ならしめ綠肥の使用をして堆積厩肥に改めしむる等に向つて大
 に努力せねばなりません。併し此のとたる勿論一般民間の力のみによつて完全に行は
 るるものでありませぬ故に一方當局に於ても鋭意牧野の維持保護の方法を講せら
 れて共同一致の力に依らねばなりません。彼の收約的牧草論の如き私も其の必要を
 認めて居るのでありますけれども此の牧草栽培の事たる北海道以外に於ては容易

に行はるるものでありませぬ故に之れは地方の状況に依り事情の許す限りに於て
 徐々に其の普及を計ることが得策であらうと思ひます。然れども優良なる貴重の家
 畜を飼育するには良き牧草が必要であります。斯る場合には是非とも牧草地の
 準備を爲さねばなりません。即ち英國純血種馬の如き又優良なる「ホルスタイン」種牛
 の如き永久に其の原形体格を維持せしめんとするには牧草地の放飼が最も肝要な
 ることであります。

組合。畜産業の發展を促進するには種々の機關がありますが産牛馬組合の如きは
 最も有要のものであります。従來各地方に於て其の設立を見るのでありますけれども
 も多くは有利的に活動して居りませぬ甚だしきに至りては他に悪用され忌々しき
 弊害を醸して居る所があります。斯る共同的經營の念慮に乏しきは我邦實業界の通
 弊でありまして私は殊に我畜産界の爲めに常に遺憾に思ふて居るのであります。和
 蘭國に於ける「ホルスタイン」種牛能力の發展と製乳業の發達とは全く組合の効力に
 歸するのであります。又丁林國に於ける養雞業の發達も亦全く組合事業の賜物であ
 りまして組合たるものは其の運用の如何に依つては實に偉大の効績を顯はすもの
 であります。幸に我邦に於ては昨年産牛馬組合法は畜産組合法と改正されまして經

費の徴收聯合會の設立、必要事業の經營、低利資金の借入等極めて有利なる運用の途が開かれて居りますから、今後一層組合を利用して活動するに至らば畜産業の發展上多大の効果が得らるゝであります。

製乳。乳牛の能力を上進せしむるに従ひ牛乳の生産に増加を見るは當然のことでありまして、而かも其の増加は豫期する所の希望でありますけれども、其の販路にして田滑ならざるときは所謂賣の持腐と言ふが如き悲運に陥るのであります。故に此の点に付ては深く研究して適當の方法を實行せねばなりません。蓋し生乳販賣の有利なるは何人も知る所でありますが、其の需要者は急劇に増加するものでありませぬから、此の際是非とも製乳業を起すの必要があるのであります。其の製造事業としては煉乳、乳油、乾酪、粉乳等各種の製造品がありますが、就中需要多くして利益の大なるは煉乳の製造であります。

抑も我邦に於ける煉乳業は遠く二十餘年前に創まり、其の永き年月を経るにも拘はらず著しき振興を見るに至らざるは畢竟製造法宜しきを得ずして品質不良なるが故舶來品に心醉せる邦人の爲めに排斥せらるゝるに基因するのであります。併しながら各地産乳量の漸次増加するに従ひ製造業も各方面に勃興するに至り、最近數年間

大に其の生産額が殖へて居ります。即ち明治四十四年には百二十万四千六百六十斤の製造高で、貳拾貳萬貳千參百參拾參圓の價額でありましたが、大正二年には倍額以上に進み、斤數にして二百八十九万九千九百九十二斤、代價にして五拾六萬八百參拾七圓となりて居ります。本年の如きは無論六拾萬圓以上に達するであろうと思ひます。而して年々海外より輸入する煉乳は貳百萬圓以上の巨額でありまして、今も我邦の製造高は漸く其の四分の一に過ぎないのであります。故に今後全く輸入品を逐驅して内地品を以て其の需用を充たさんとするには前途尙は遠遠なるのみならず、今日の如く彼我目前の小利を競ふて、區々たる姑息の方法を弄するやうでは、終に技術の拙劣なるが上にも粗製濫造の弊を醸し、其の結果一般顧客の信用を失ひ、仮令價格に於て低廉ならざるも再び輸入品を歓迎するに至るであらうと思ひます。左なきに、外國品は種々奇策を運ぐらして、甚しく内地品を壓迫して居るのであります。故に此の儘にして進むときは到底輸入品に對抗することは不可能となるのであります。

聞く所に據れば、本縣有志の間に於ては茲に大に觀る所あり、少なくとも一縣下を一團と爲したる共同事業として煉乳の製造を開始せんとするの計劃ありと之れ實に今日の事情に對し最も適當なる經營であると信じます。前に述べたるが如く、我邦煉乳

の製造高に於ては大々的餘地が存して居るのでありますから殆んど外國品に對抗するに足るべき優良品を製出して廣く需用者の信用を得るに至らば其の利する所は極めて大なるもので且つ確實であります就ては苟も産牛業に従事する所の諸君は國産獎勵の趣旨に従ひ此の際鞏固なる共同力に依つて速かに本事業をして成立せしむるやう大に努力せられんことを切に希望するのであります斯くして初めて自他穩健なる産牛上の利益を獲得するのみならず延ひては曩に博したる乳用牛の産地たる聲價をして一層發揮せしむるに至るのであります

産牛業の發展に就て (終)

大正四年七月廿一日印刷
大正四年七月廿五日發行

岡山縣内務部

岡山縣岡山市船頭町八十二番地ノ一

印刷人 安井宇吉

岡山縣岡山市西中山下百五十四番地

印刷所 山陽活版所

327
732

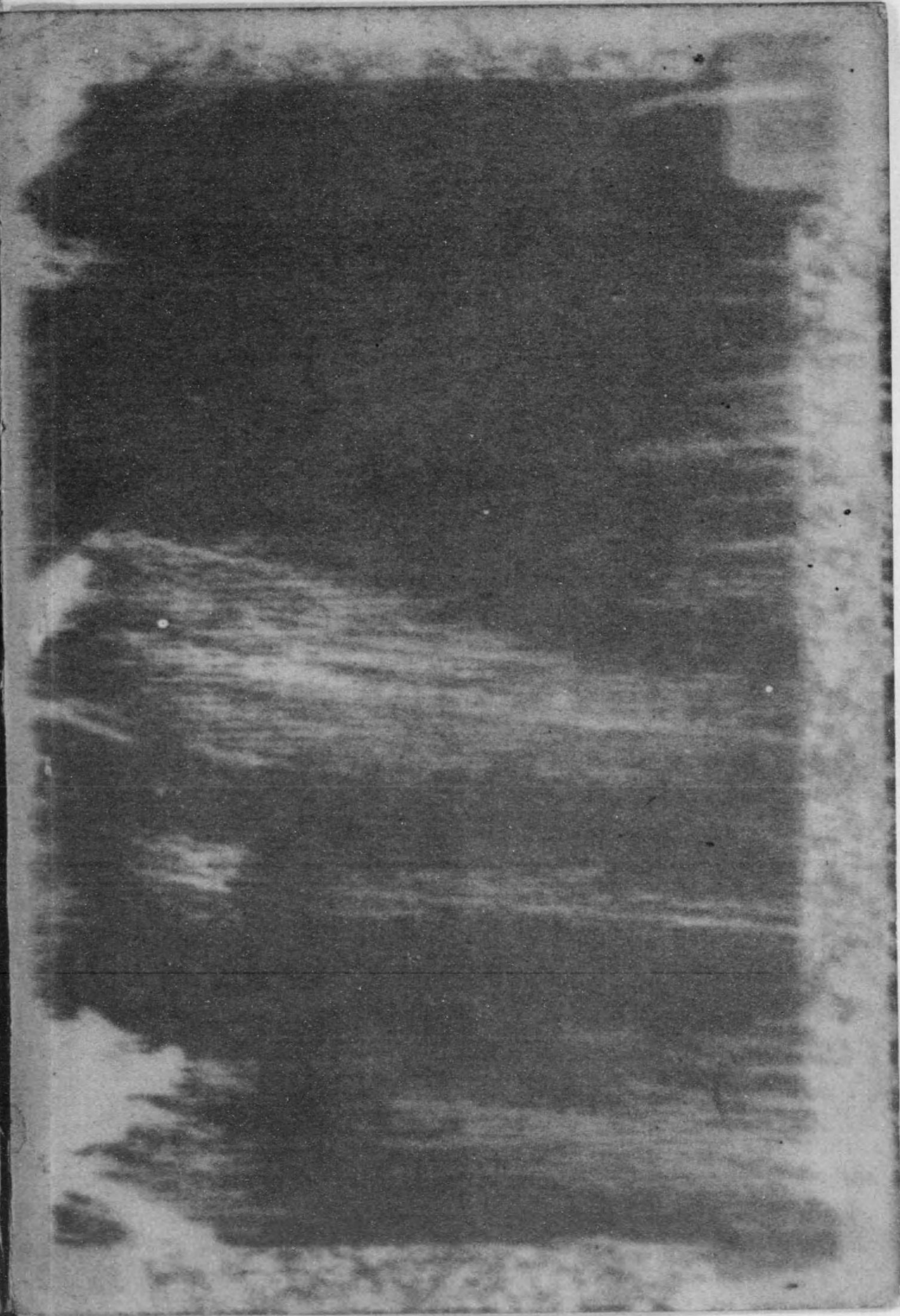
人五四
...

同山線内

...

...

327
732



終

